

ODU NEWS

大阪歯科大学広報

ODU NEWS No.161
2011年3月31日

目 次

・平成 22年度 卒業式	3
・学長告辞 学長 川添 基彬	3
・理事長式辞 理事長 川添 基彬	4
・祝辞 同窓会会长 三谷 卓	5
・祝辞 枚方市長 竹内 脩	6
・学位・博士(歯学)授与報告	10
・平成 23年度 一般入試合格発表	11
・平成 22年度 専門学校卒業式	11
・定年退職	12
・「ふりかえり」の時季 豊田 紘一	12
・定年退職を迎えて 上田 雅俊	13
・定年退職挨拶 江藤 隆徳	14
・定年を迎えて 魔尾 富貴子	14
・定年を迎えて 櫻井 邦昭	15
・定年退職の挨拶 宮川 浩司	15

・さらば、歯科大 永井 利明	16
・次期学長に川添基彬学長が再任	17
・平成 22年度 解剖体遺骨返還式	17
・第 104回 歯科医師国家試験結果	17
・第 18回 公開講座「枚方講座」開催	17
・第 6回 人権標語入賞者表彰式	18
・平成 22年度 人権講演会開催	18
・大浦教授“IAADR”優秀科学者賞受賞	19
・平成 23年度 事業計画	20
・寄贈	22
・東日本大震災救援金の募集	22
・創立 100周年記念事業募金寄付報告	23
・人事	27
・あとがき	27



平成 22 年度卒業式（平成 23 年 3 月 11 日）



平成22年度 卒業式



平成23年3月11日（金）午前10時から楠葉学舎大講堂において、平成22年度大阪歯科大学卒業式ならびに大学院学位認証式が開催された。川添堯彬理事長・学長から第59回大学卒業生105名一人ひとりに卒業証書・学位記が授与され、第47回大学院修了者17名にはそれぞれの指導教授から博士（歯学）の学位記が授与された。

今年度から川添学長を始め壇上のすべての主任教授ならびに大学院修了者が、襟元にODUブルーをあしらったアカデミックガウンを着衣し、着帽する莊厳な雰囲気の中で卒業式は進行した。川添堯彬理事長・学長が学長として告辞、また理事長として式辞を述べたあと、来賓祝辞では三谷 卓同窓会長ならびに竹内脩枚方市長が卒業のお祝いを述べた。

最後に、卒業生記念品寄贈があり、卒業生を代表して森本孝行さんから川添学長に記念品が寄贈された。



学長告辭

学 長 川添 堯彬



3月1日に始まった東大寺二月堂のお水取り行事は、3月6日の啓蟄を過ぎてなお続き、14日にいよいよクライマックスを迎えます。梅林も今満開で、春の息吹がそこかしこに感じられます。



本日、この佳き日に、第59回大阪歯科大学卒業式を迎えられます105名の新学士諸君、ならびに第47回大学院学位認証式を迎えられる17名の新博士の皆さん、本日は誠におめでとうございます。同時に、本席にご臨席いただきました保護者、ご家族の皆さんにおかれましても、ご子弟の晴れ姿に万感の想いを抱いておられることと拝察いたします。

卒業といいますと日本では、文字どおり業（ぎょう）を卒（お）えるということで、これまでの修業や学習を終えて実社会へ巣立つという意味合いが強いのですが、アメリカでは卒業式のことをコメントあるいはコメントメント・エクササイズという言い方をします。コメントメントは「始まり」という意味ですが、アメリカでは「卒業式」という意味でも使われており、卒業式は（教会での修行を終えて）新しい生活への始まりの日と考えられています。私はこの考え方、卒業式を始まりの日とする考え方賛同します。そして、皆さんに「始まり」の言葉を述べたいと思います。

このたび、学部を卒業された「新歯学士」の皆さんに申したいと思います。

あなた達は将来、いろいろな方面に進まれて歯科医師として活躍されることだと思います。その道がどのような道であっても、目標がしっかりと確かであれば、すべての人が歯科医師としてすばらしく人々に貢献されることに間違いがないと確信します。

その目標について、本学の卒業生は皆、素晴らしい建学精神をもっています。今から100年前、明治44年12月12日に本学は藤原一太郎先生によって創立されました。そのとき、藤原先生は「学校は営利事業に非ず、博愛公益に努力すること」という言葉を後進に遺されました。皆さんには開業医、役所勤め、研究者、本学教員、さらに国際的に活躍されるなどさまざまな分野の選択肢があると思いますが、どの道を選ぶにせよ、われわれの尊い最終目標は人類への「博愛」と、人びとの「公益奉仕」であることを胸に銘記していただきたい。

次に、大学院を修了された「新博士」の皆さんへ申したいと思います。歯学部を卒業後、さらに勉学意欲、研究意欲に燃え、良くぞここまで耐えて見事に博士（歯学）の学位を達成されました。

この苦労、努力が今後、皆さんの各々の職業人生に存分に生かしていくものと確信します。そうした思いや決意を各自の胸に刻んでいただくために、今年か

ら本学にしかない独自のデザインのガウンを着用して
いただきました。今日のこの思いを大切にして、各分野の専門家として思う存分、活躍されますことを祈念します。

そしてさらに期待したいことは、皆さん方は恵まれ、また幾多のご努力を経てここまで進んでこられた前途有為のエリート人材であるということです。これからは、どの分野、どの国、どの地域でもかまいませが、あなた達には、本学の大学院を出たことを常に胸に銘記しながら活動していただきたい。そして本学の究極の目標である「博愛と公益」というゴールへ少しづつ近く努力をしていただきたいと念願します。

以上、新歯学士と新博士歯学の皆さんへの学長告辞
といたします。

理事長式辭

理事長 川添 勇彬

次第に春めいた陽気が感じられるこの佳き日に、第59回大阪歯科大学卒業式を迎えられます新学士の皆さん、また第47回大学院学位認証式を迎えた新博士の皆さん、本日は誠におめでとうございます。同時に、本席にご臨席いただきましたご家族、保護者の皆さんにおかれましても、喜びとともにさぞや安堵の思いでおられることと拝察いたします。

私には、卒業生の皆さんが出されてから、なってほしい歯科医師像があります。それは、本学の教育基本方針にもありますように、「サイエンス＆アート＆ハーツ」を思い出してほしいということです。サイエンスは歯科医師としての科学的な探究心ということであり、アートは皆さんの診療技術を芸術の域まで高める努力をしてもらいたいということ、そしてハーツは最も大切な患者さんへの思いやりの心、人間性ということになります。皆さんには、歯科医師として必要なこの三つの異なる資質をいつも心にとどめておいてもらいたいと思います。具体的には、三つの歯科医師像が思い描かれます。

一つ目は、患者さんに感動してもらえる人で、またそのことを自らの喜びと思える歯科医師であります。患者さんは一般社会人であり、一般国民であります。その患者さんから感動と感謝の気持ちが伝えられ、それを喜びとできる歯科医師です。患者さんは、安全・安心の歯科治療を何より望んでいるからです。

二つ目は、患者さんからまた再び、この先生に診てもらいたいと思ってもらえる歯科医師であります。これも、信頼確保であり社会貢献であると思います。

そして三つ目は、職業として、歯科医師になって本当によかったですと思える歯科医師であります。これも、本学の建学の精神にかなったことであります。

皆さん方も、今日この日に、こぞって未来へ向けての新たな誓いを胸に刻み、肝に銘じていただきたいと思います。

一方、大学院博士課程を修了されました皆さん方は、それぞれが専攻講座指導教授の下で研鑽に努め、専門分野での知識をより深められたことと思います。しかし、単に学位を取得したことに満足せず、得られた知識と専門分野での研究成果をこれから歯科医療分野に反映させていただきたく切望して止みません。

そして学長の告辞にもありましたように、「博愛と公益」、この建学精神を目標としてこれからも研鑽を重ね、大きく羽ばたいていただきたい。

さらに、将来の歯科界を背負って立つ皆さん方には、本学や我が国にとどまらず、広く国際舞台にまで羽ばたいていただこうことを切望して理事長の式辞とさせていただきます。





祝　辞

同窓会会長 三谷 卓



第59回卒業生の卒業にお祝いの言葉を申し上げます。諸君は、この式典をもって大阪歯科大学をめでたく卒業し、歯学士としてのご称号を得たところであります。全国の一万余名の同窓会を代表いたしまして、心よりお祝いを申し上げます。誠におめでとうございます。また、ご父兄におかれましては、この日を一日千秋の思いで待たれていたことでしょう。今までのご苦労に、深甚なる敬意とご慰労を申し上げたいと思います。

振り返れば、諸君は、ご両親の期待を背に小学生となったあの日から、18年間の螢雪を重ねてこられました。その間、多くの方々に支えられ、ようやく目標としていた頂に達したわけでございます。その成果は貴重であり、諸君の心中は感謝と自らの歩みに対し感無量であり、また達成感、開放感の心境ではないかと思います。特にこの6年間は、歯科医になる専門的な教育を修得し、ようやく心身ともに治療に参画できる条件を整えてこられました。後は、国家試験の結果を待つのみでありますが、何としてもよい知らせであることを、我々も心から願っています。

歯科医師国家試験については、様々な意見のあるところですが、現実は毎年、何名かが苦杯をなめることとなります。しかし、そのときでも決してこれに負けない、あせらず、苦難をばねにして初期の目的を勝ち取っていただきたいと思います。試験は道のりであり、終着点ではありません。どんな時にも、冷静に原因を分析し、作戦・対策の立て直しを図り、栄光に向かっていただきたいと思います。

さて、諸君は、今日から大阪歯科大学同窓会員となられました。同時に、同窓会員としての義務と責任が発生します。将来は、事あるごとに、大阪歯科大学の出身者としての名誉と評価を受けることになります。同窓会が、自分と無縁のものでよいという者も時おりますが、自分が歩んできたその道をどう考えるか、どう受けとめるか。それが母校愛の中身につながっていくと思います。年齢とともに、その重みも感

じることができるでしょう。

同窓会の全国組織としては、所属する支部の同窓会員となります。一方、諸君にとってのクラスの同窓会は、今までの6年間の友情だけでなく、大きく言えば生涯の友として互いに貴重な存在になります。人生は、これを共に歩むことができる友があればこそ、有意義になると思います。互いに「良き友」となれるように努めてください。同窓会全体としては、長い歴史の中でクラスの絆が歴代の連帯をつくり、大阪歯科大学同窓会としての「誇りある魂」になっていると思います。

ご承知のように、本年、本学創立100周年を迎えるが、新たなる創造をもって伝統を発展させなければなりません。来る11月26日は、大学の式典に続きまして、100周年の記念会員大会を開催いたします。皆さんも是非、ご出席いただきたいと思います。今年は、諸君にとっては記念すべき年であります。諸君は、これから数年は自己研鑽に努められ、信頼と尊敬を得ることになります。諸君自信も様々なことに出会っていくでしょう。その中で成功を勝ち取る、すなわち自分の志、夢を実現していくためには、目的に向かってやり抜く意識を常に持続するということです。時代は厳しくとも、皆さんは今が出発点であります。自分の未来は今よりも明るい、そして発展させるように努めていくことです。自分を意識して頑張ってください。諸君の未来を大いに期待しているところです。

大学院を修了された皆さんには、研究成果を通して貴重な経験を得られました。今後は、この間に得た体験やその過程での努力、苦労というものを必ず、臨床研究あるいは後輩指導に大いに活かしていただきたいと思います。その中で、歯学発展のために貢献されることでしょう。

最後になりましたが、皆さんの今後のご発展とご健勝を心から祈念して、卒業のお祝いの言葉といたします。おめでとうございました。





祝　辞

枚方市長 竹内　脩

ご紹介いただきました枚方市長の竹内　脩でございます。

平成22年度大阪歯科大学卒業式、大学院学位認証式にあたりまして、お祝いの言葉を申し上げます。まず、大学をご卒業されました皆様、そして学位認証を受けられ見事に博士になられました皆様、まことにおめでとうございます。大学に入学されて6年、博士課程修了まで11年、その長きにわたりご子弟を育んでこられましたご家族の皆様、保護者の皆様ほんとうにおめでとうございます。心よりお喜びを申し上げます。



大阪歯科大学は、先ほど来、お話をございますが、本年、創立100年という輝かしい歴史をお持ちでございます。この枚方の町は、大阪歯科大学のある町ということで、市制63年の歴史を歩んでまいりました。まさに、大阪歯科大学は私ども枚方市民とて誇りであり、あこがれであります。そしてまた、近年におきましては、大学の社会貢献ということで、大学がお持ちの学術的な、あるいは知的な財産を私ども枚方市民に対しまして、市民公開講座等々を持ちまして、ご提供いただいております。改めて感謝を申し上げますとともに、日本におきます歯科医療、また歯学研究の分野において確固たる地位をお占めになっておられる、その大学の卒業式、学位認証式にお招きいただき、このようにお祝いの言葉を述べさせていただく機会を与えられましたことを、市長として改めて心よりお礼を申し上げます。（中略）

私は今、62歳でありますが、毎月1回友人の歯科医院で、彼も本学の卒業生でございますが、歯をチェックしてもらっています。毎月友人の歯科医院に行って感じることなのですが、毎回のことなのに「いやですな、いやな感じがするんですね」、「どんな痛いことをされるのかな、何をされるのかな」。ほんとに、そんなことを思いましたら、1億3千万人の日本人の中で歯科医院に行くのが「好きや」という人はいないのではないかと思います。そういうことを思いました時に、改めて今日、実にご卒業なさった方、新しく学位を取得され

た方々・・・。（中略）

どうぞ、これから歯科医師として独り立ちされるにあたりましては、この患者の気持ちをお含みいただきまして、どうぞ、笑顔を忘れずに患者さんに向き合っていただける、そういうやさしい、そしてその前提には、優れた知識、医療というものが必要だと思います。どうぞ、その三つを兼ね備えた、すばらしい歯科医師、そして健康の源は食べるからであります。認知症の予防には、歯をしっかりととかむこと、かむことによって脳に刺激が与えられ、認知症の発症を防ぐことができるでございます。このように考えますと、すべての日本人、あるいは人類のすべての健康は歯科の健全なる発展に依拠しているのではないか、このように思うしだいであります。

どうぞ、皆様方は、これから歯科医師として独り立ちされる方、あるいは歯科行政の分野に入られる方、あるいは研究の道を歩まれる方、これから道は様々でありますけれど、どうぞ、この歯科医学の重要性というものを、私、素人が言うのも何でございますが、どうぞ、きっちり修めていくつかの道にトップでもって、これからいろいろなことがあると思いますが、堂々としっかり人生を歩んでいただきますことを心より、お祈りを申し上げたいと思います。

最後になりますが、大阪歯科大学100年を超える歴史におきまして更なる発展をされますこと、そして日頃より、川添理事長・学長先生を始め大学の皆様方は、今日の市政運営におきましてご支援、ご協力いただきましたことに、最後になりましたが、お礼を申し上げまして、お祝いのご挨拶とさせていただきます。

どうぞ、皆様のこれからのお仕事、堂々たる人生を心よりお祈りを申し上げます。おめでとうございます。



ODU NEWS No.161





ODU NEWS No.161



三田 悟司 甲第664号 (平成23年3月11日)

Stability of beta tricalcium phosphate-coated mini-implants in rat tooth sockets (β -リン酸三カルシウムコーティングインプラントのラット抜歯窩における固着について)

井上 太郎 乙第1555号 (平成23年3月23日)

新製法によるオールセラミッククラウンのコーピング強度の改善

平成23年度 一般入試合格発表

2月3日（木）午後3時、平成23年度一般入学試験前期の合格者の発表があり、73名が合格した。受験生や家族の方などが見守る中、合格者の受験番号が掲示され、携帯のカメラに収める光景が見られた。（写真）

また、3月16日（水）には後期日程の合格発表があり、2名が合格した。



平成22年度 専門学校卒業式

∞ ∞

3月8日(火)、午前10時から平成22年度大阪歯科大学歯科技工士専門学校ならびに大阪歯科大学歯科衛生士専門学校の卒業式が、楠葉学舎講堂で行われた。歯科衛生士学科第34期17名、歯科技工士学科



第46期17名、歯科技工士専攻科第30期6名ならびに研修生修了1名、合わせて41名に末瀬校長から卒業証書が手渡された。

表彰式では、大阪府知事賞が歯科衛生士学科の松浦祥子さん、歯科技工士学科の豊田美絵さんに授与されたのを始め、様々な団体から多くの賞が授与された。

末瀬学校長は告辞において、歯科衛生士学科の卒業生には「患者さんへの思いやりの心」、歯科技工士学科の卒業生には「技工技術力のアップ」を心がけてもらいたいと述べ、諫訪中央病院の鎌田 実先生が提唱している「行動変容」を引用して、何かに行き詰ったときは無理をせずに「自らは変えられる」こと、そのことを知っておいてもらいたいと述べた。また、川添理事長は式辞で、本学の創立者藤原市太郎の言葉「博愛公益のために努力すること」を取り上げ、努力している姿は誰かが見ていてくれるので、自ら選んだ道に誇りを持って生きてもらいたいと述べた。

最後に、卒業生、在校生、ご父兄、教職員一同、「仰げば尊し」を合唱し卒業式は幕を閉じた。





定年退職



3月31日、今年度で定年退職される10名の教職員の辞令交付式が行われた。このたび、定年退職されたのは教員の豊田紘一先生、大東道治先生、上田雅俊先生、江藤隆徳先生と職員の中村廣志さん、鷹尾富貴子さん、櫻井邦昭さん、佐藤繁男さん、永井利明さん、宮川浩司さんの10名です。退職にあたり一文を寄稿していただきましたので、お写真とともに掲載します。



「ふりかえり」の時季

物理学教室 豊田 紘一



肌を刺す寒さの中の桜の固いつぼみ、あわただしい年度末、そして私にとっては一生に一度の定年退職、加えて突如起きた国難とも言える未曾有の大震災と数万を超す犠牲者、現代の繁栄を背負ってきた科学技術の破たんとも言える深刻な原発事故、いやが上にも自分の来し方行く末を深刻に考えざるを得ない時季を迎えることになりました。昭和19年、敗戦の前に生まれ、大学入学までは日本全体の終戦の混乱と貧困の中で育ち（けれども皆、結構楽しかった）、その後、高度成長とその歪に振り回された中で生きてきました。そしてこの時期の大震災、もう一度生活の指針を捉え直す時季が来たのかもしれません。

私は昭和51年4月に本学の物理学教室に助手として採用して頂き、それ以来35年間に亘って多くの先生方からご指導とご厚誼を頂き、職員の方々からご援助を頂きました。この中で学生諸君と共に学び、学生諸君の歯科医師や人間としての成長を楽しみ、歯科医学をはじめとする物理学以外の分野の方々から学問的なご教示を頂きました。非力な自分と思いつつ、いつも自分なりに一番良かれと思うことを精一杯やってきましたが、どれだけのことが出来たのか、反省ややり残したことなど多々ございます。しかし、皆様方のお蔭で無事勤め上げることが出来たことを感謝し厚くお礼申し上げます。

教育は突き詰めれば、教師と学生の関係に帰着し、大学を改革し良くして行こうとすれば、畢竟、その構成員である教職員の奮闘に頼るしかないというのが本質のようです。今日、全国の私立歯科大学は生き残りをかけて懸命の努力を重ねており、本学も川添学長・理事長先生を先頭に必死の努力を続けております。そして、少しでも成果が上がり、また今後の成長が期待できるとすれば、それは大学の中心部隊である教職員の皆さんのがゆまぬ汗と涙によるのだと思います。数年後、歯科大学をめぐる現在の状況が一段落した時、本学が全国でどういう位置を占めているか、それは今



後多くの教職員の力をどう結集するのか、大学が頑張る人の努力を認め、育て、正当に評価していくことが出来るかどうかによると考えます。「老舗は強い」、本学は伝統といい、教員の教育力といい、歯科界での同窓の力など大きな潜在力を持っています。これらの資産を元に、今後大学の力を結集して更に新しい大きな力を育てていかれるものと確信しております。

35年間のご厚誼、皆様との楽しい思い出、本当に有難うございました。

ご指導頂きました。本当に感謝に堪えません。

もう一人の恩師は川添堯彬理事長・学長であります。平成18年、今井教授の定年ご退職後の後任候補教授選考の時でしたが、今井先生のお取り計らいで4月から選考に入っていたのですが、応募者が私一人という状況であったため、当時副学長の川添先生が先頭に立つて色々奔走され、やっと10月に教授選が行われ教授にして頂きました。平成20年4月には、附属病院副病院長にご指名を頂き、定年になるまで病院の運営に携わらせて頂きました。本当に忙しい毎日でしたが、充実した生活を送ることができ感謝に堪えません。

思い起こせば、私の人生でのポイントは3つあったと思います。第1は本学入学と同時に日本拳法部に入部したことです。身体の小さかった私は本当に苦労し、自分なりの拳法を模索し、修行したことが脳裏に浮かびます。また、1学年先輩と日本拳法の宗家のお家にお邪魔し、その先生のお蔭で前日本拳法会会長の友田先生や現会長の小西先生とも知遇を得ることができました。平成9年4月からは部長として、全日本歯科学生体育大会（デンタル）などの大会や学生のコンペには可能な限り出席し、学生達には武道とスポーツの違いを説いてきました。学生達の真摯な取り組みにより、デンタルでは2度優勝する栄誉に浴することができました。学生達に感謝するとともに、本学の日本拳法部関係者の皆様に深く感謝しています。

2番目は歯周病にご縁をいただいたことです。これについては前述いたしましたが、教授にして頂き、平成21年4月から日本歯周病学会常任理事に就任し、禁煙推進委員会の委員長として『タバコと歯周病のない世界』を目指して」と題したパンフレットを委員とともに作成し、国民の禁煙活動に少しでも寄与できたのではないかと思っています。また、禁煙学術ネットワークを通じて、医科の先生方と交流できたのも歯周病を専攻したからだと思っています。

3番目は昭和58年、当時の附属病院病院長の三谷春保名誉教授にご推薦頂き、大阪府国民健康保険診療報酬審査委員会委員になったことでした。当時の歯科の審査委員は大阪歯科大学の先輩ばかりでしたが、大学という井の中の蛙から歯科医療界を動かしている先生方とお付き合いさせて頂いたことは、私のその後の人生にとって大きなプラスであった思い感謝しています。いずれにせよ、人とのご縁というものは本当に大切で

定年退職を迎えて 歯周病学講座 上田 雅俊



人生の大きな節目となる定年を迎えるにあたり、まずもつて多くのご厚情、ご指導、ご鞭撻を賜りました理事長・学長の川添堯彬先生をはじめ主任教授の先生方、多くの教職員の皆様、恩師、先輩、同輩、後輩の皆様方に心から感謝し、御礼申し上げます。

さて、歯周病学講座初代教授の故山岡 昭先生は、定年退職記念誌のなかで、定年とは「川を下れば海、山を上がればおのぞと山」、何の不思議もないと述べておられます。また、二代目教授の故今井久夫先生も記念誌のなかで、「定年とかけて失恋の心境と説く、その心は寂しくもあり、むなしくもある」と記されています。私の現在の心境は、今井先生に近いと言わざるをえません。

先日の定年退職記念講演で「歯周病にかかわってきた43年間」と題してお話させて頂きましたが、実は44年弱なのです！それは、私が6年生、昭和42年の秋でしたが、奈良で開催されました第10回日本歯槽膿漏学会（現日本歯周病学会）総会に、本学の故小西浩二先生が講演されるということで出席したのが、歯周病とのかかわりのはじまりでした。歯周病へのご縁を頂き、私が今日あるのは小西先生のお陰といっても過言ではありません。また、歯周病学講座の恩師である山岡先生、今井先生には講師、助教授としてわがままな私を自由に教育、臨床、研究活動できる場を与えて頂き、

大事にしていかなくてはと痛感しています。

昭和38年4月に入学以来、本年創立100周年を迎える大阪歯科大学には半世紀（49年間）にわたりお世話になりました。その間の出来事は走馬灯のように浮かんでまいり、語りつくせないものがあります。

終わりに臨み、川添堯彬理事長・学長を先頭として、大学の今後益々のご発展を心よりお祈り申し上げるとともに、不出来な私を今日まで支えて頂き、大阪歯科大学歯周病学講座の主任教授としてつつがなく、無事定年を迎えたのも、高津兆雄准教授をはじめ歯周病学講座の先生方、講師（非常勤）の先生方、大学院生、研修医、病院医員の先生方のお蔭だと思っていました。本当に有難うございました。

定年退職挨拶
口腔インプラント科 江藤 隆徳

平成23年3月末をもって定年退職を迎え、本学在職41年間、数々のご厚情とご指導を賜りました恩師、先輩諸氏、教職員の数多くの方々のお力で無事定年退職を迎えることができました事に対し、心からお礼申し上げ感謝いたします。

「光陰矢のごとし」と申しますが、振り返ってみれば長いようで短い41年間で、平成9年から14年間の口腔インプラント科での勤務は特に短く感じました。

昭和39年に大阪歯科大学に入学しましたが、この年の10月1日より東海道新幹線が開業し、10日から24日まで第18回オリンピック競技大会が東京で開催されました。昭和45年に「人類の進歩と調和」をテーマに大阪・千里で開催されたEXPO'70の年に卒業しましたが、振り返れば有意義な6年間の学生生活でした。卒業後すぐに恩師三谷春保教授の歯科補綴学第3講座(欠損歯列補綴咬合学講座)に入局させて頂きました。優秀な先輩方ばかりで多くの勉強をさせて頂きました。

講座では咀嚼筋の筋電図学的研究が多かったですが、インプラント支持機構の力学的な研究など口腔インプラントに関する研究も行われており、先輩のお手伝い

をするうちにインプラントに興味を持つようになりました。平成9年4月、新学舎建設に伴う天満橋附属病院が完成し、本館10階に「口腔インプラント科」が独立科として新設され、口腔インプラント科勤務を命じられました。

欠損補綴の治療法としてインプラントが臨床に取り入れられ、インプラントを希望される患者さんの数は年ごとに増加し、口腔インプラント科も充実してまいりました。現在では教員数が5名、病院医員が4名で診療および研究等に従事しておりますが、専門医取得を目指して研修を希望される研修医の先生方も、毎年に増加しております。

本学が創立100周年を記念する平成23年に定年退職を迎えることとなりました。これまでの人生を有意義に過ごし、『生涯学習』を実践し、浅学非才ですが少しでも後輩の役に立つよう頑張りたいと思います。今後とも変わらぬご指導、ご鞭撻を賜りますよう何とぞよろしくお願い申し上げます。

最後に、今まで支えてくださった関係各位に心から
の敬意と感謝の辞を捧げ、厚くお礼申し上げます。
母校大阪歯科大学の益々のご発展と教職員皆様方のご
健康とご多幸を祈念し、本学のさらなる100年への飛
躍を期して、創立200周年が無事に迎えられることを
切に希望いたします。

定年を迎えて 同窓会事務局 鷹尾 富貴子

三月末日を持ちまして、恙無く定年を迎えられましたことは私にとりまして大きな喜びでございます。

学業を終えた翌日より大阪歯科大学にお世話になり、一人息子の出産・育児を挟んでその前後合わせますと、36年もの永きに渡り大学に奉職させて頂いたことになります。

その間、人事異動によって総務課、秘書室、同窓会事務局とそれぞれ部署は替わりましたが、その折々に先生方や上司の方々にご指導を戴きながら仕事を全うし

てまいりましたその事が、今の私を形作ってくれたものと深く感謝いたしております。今後、何かの形で生かせてゆければとは思っておりますが、今はマダ何も浮かんでまいりません。或いは何もせずにぼんやりと過ごしてしまうかも・・、ゆっくり考えてまいりたいと思つております。

最後に、錦繡の秋に開催されます大学創立100周年記念の行事並びに同窓会全国会員大会が、有意義な事業でありますよう心より祈念いたしております。

も、カセット保持装置で簡単に撮影出来るようになりました。また、コーンビームCTでもチルレストをメーカーに要望し、今では標準装備になりました。最近では大型機器の更新時期にあたり、CTはシングルヘリカルから16列のマルチCTに、今年は、MRIも最新バージョンにアップグレードになりました。これからはフィルムレスになり、また電子カルテ化に向かって一層の利便性と迅速性に貢献するでしょう。

多くの先生方や技師の協力により、お蔭様で歯科での仕事を今まで無事遂行することが出来ました。出張により全国の歯科大学病院を訪問し、多数の歯科放射線技師と知り合いになり有益な情報を得た事や、又一度は行ってみたかった北米放射線学会RSNA（シカゴ）に、08年清水谷教授と参加出来、よき思い出になりました。

これからも、本院の中央画像検査室でもまだまだハードやソフト面で改善の余地があるとおもいます。私は自身は、歯科大に奉職して歯に対する見方が多少理解でき自分自身「8020」を目指したいと思っています。その点では非常によかったです。これからは金銭的、精神的にもソフトランディングを目指してもう少し頑張って行きたいので、これからもよろしくお願ひ致します。

定年を迎えて 中央画像検査室 櫻井 邦昭



歳月の流れるのは早いもので、とうとうあまり実感がわかないまま定年の年を迎えることになりました。思えば8年前、阪大の技師長の後押しもあり、歯科大にお世話になることになりました。

歯科大の田中先生、川崎先生、清水谷教授は阪大病院の放射線治療と一緒に仕事をさせて頂いていましたが、歯科の世界は医科からは遠い世界で最近は医科にもパノラマ装置が導入されるようになりましたが、放射線の仕事もなじみがありませんでした。時代はデジタル化の波とフィルムがウェット（湿式）からドライ（乾式）に移行。歯科大でもコダックのCRが導入されていましたが、口外法の大多数を占めるパノラマ撮影は、装置の構造上の問題もあってデジタル化は出来ませんでした。デンタル撮影では、患者さんに嘔吐反射の強い人や問題のある患者さんに遭遇して、いろいろ勉強になりましたし、防護エプロンの使用にも違和感がありましたが、整合性のためにはやむえない面がありました。

04年アグファのCR導入し、パノラマサイズのカセットや6F、4Fサイズのフィルム出力に特徴があり、保管に影響がなかったのでスムースに更新できました。口外法では、撮影しにくい人（障害者、車椅子、小児）をいかに撮影するか、アダプタを作成して随分助かっています。現在では、改造は無理ですがセファロ撮影

定年退職の挨拶

歯科技工士 宮川 浩司



私、歯科技工士になって病院に勤務して以来、早いもので38年になりました。今までの道のりは、長いようでいて、実は非常に短かったような気がいたします。

まだ、将来の目標を決めかねていた私に、兄が「この仕事はどうや！」と云われてやり始めることになりました。本来、私はあまり器用な方ではないのですが、物を作ることは大好きでしたし、職人的、匠的な感じもあこがれました。そして技工士になったのですが、趣味と仕事の違いを後々、痛感させられます。学校卒業後、病院に就職でき、自分

が実際にどこまで勤まるのか不安を持ちながら病院に行くと、先輩や先生方に優しく迎えられて技工士人生が始まりました。

仕事の方は、先生方の指導の下、最初から自分のやりたいやり方で信用してやらせていただき、自由に作らせていただきました。その折は、本当に感謝しております。若い先生方も、公私ともども、仕事に遊びに忙しい毎日を過ごしました。神経を使い、気が張る仕事は、朝早くから夜遅くまで頑張りました。とても忙しく辛い毎日でしたが、すごく充実した毎日でした。若い先生方と仕事をすることはとても勉強になります。色々と質問されたりするので、その分こちらも勉強しなくてはいけないし、技工サイドのミスも見つかりました。本当によい経験をさせていただきました。

ほかにも、38年の間には色々なことがありました。タクシーにはねられ3日間意識不明で入院、両親が同じ年の2週間で相次いで亡くなつたこと、心筋梗塞で入院、顔面火傷、勒帶損傷、夜中に信号無視の歩行者を避けて単車で転倒し大腿骨骨折、そして2回目の心筋梗塞と数々の怪我や病気で入院し、周りの人たちに大変なご心配とご迷惑をかけてきました。歯科大学始まって以来の怪我、病気の多い男だったと思います。深く反省しています。

そして、現在は元気に、問題なく、定年退職を迎えることができました。趣味の釣り大会を兼ねた送別会を2度もしていただき、普通の送別会も数回していただき、本当にお世話になった皆様に感謝しています。退職後は、残された人生を怪我、病気をできるだけしないように、頑張っていきたいと思います。

に履き替えるという具合でした。教員の先生も旧専門学校卒の先生が、教授で多数おられました。その下の先生も、今は死語になっているバンカラ風の個性豊かなユニークな人々が多数おられたように思います。平たく俗っぽくいえば、「大阪歯科大学一家」というような雰囲気でした。当時は歯科技工士も少人数で、院内で歯科技工士に出会うこと事態、珍しいことでもありました。言わんや、歯科技工という仕事自体、世間に知られていないかったと思います。

そのような中、同級生2人とともに大阪歯科大学附属病院に奉職しました。保存科、矯正科、そして私はその当時、新講座といわれていた小児歯科に配属されました。当時はまだ高木研究室も残っていました。私と小児歯科の出会いはその時から始まりました。ナゾロジー全盛時代でもあり、個人的には補綴をしたいと思っていましたが、“ふと”あまり人気のない小児歯科を極めてみるとどうなるかと考えるようになっていきました。そして現在まで奉職、検索してまいりました。その中で、小児歯科という分野が人間の発育、成長や時間的流れを加味していることの面白さが分かつてきました。皮肉なもので人生は長くは生きられないし、実働時間は短いものです。学問の殿堂である大学で勉強しながら、働く楽しみを教えてもらったのも、この大学であると考えています。

余談ですが、阪大第三内科の医師から病院経営に転じた叔父に、附属病院に勤務すると言ったら、「2年間は毎日、図書館に通いなさい」と言われましたので、半信半疑ではありました。昼休み、勤務後と通いました。そのうち図書館の構図が分かるようになって、どこへ行くとどのような本や資料が集められるかなどが容易に分かるようになってきました。これもなつかしい思い出です。

今後、本学がどのような流れになるか老兵には分かりませんが、分かっていることは、同期の桜も私一人になってしまったことだけです。歯科医療は、まだまだ表面的なことが多いようですが、歯科医学の可能性を信じてもっと本質を探求する必要があります。

最後に、諸先生、故人になられた先生、同僚、後輩、私に親しくかかわっていただいた人々に、お礼と深く感謝申し上げます。大学は、今は元気がありませんが、きっと再び元気になって素晴らしい大学になることを願つて筆を置きます。



さらば、歯科大
歯科技工士 永井 利明

「無事是名馬」，もしこの言葉が眞実ならば，私は名馬であると言えるかもしれません。附属病院に就職した頃は，まだまだ旧制の匂いが漂う病院の風景でした。登院時には，下足番の職員さんがいて，靴をスリッパ

ODU NEWS No.161

次期学長に川添堯彬学長が再任

平成23年2月24日に開催された教授会において次期学長選挙が行われ、川添堯彬現学長が選任された。任期は、平成23年10月1日から平成27年9月30日までの4年間。

**平成22年度 解剖体遺骨返還式**

平成22年度解剖体遺骨返還式が、去る3月4日（金）午後2時から楠葉学舎3階大会議室において執り行われた。始めに、歯科医学教育の為、自らの身体を提供された16の故人の御靈に対し、参列者一同ご冥福を祈り黙祷が捧げられた。続いて、川添堯彬理事長・学長から故人とご遺族に感謝の言葉が述べられた後、当日、参列いただいたご遺族、お一人お一人にご遺骨を丁重に返還された。最後に、解剖学講座諏訪文彦教授から謝辞が述べられ、遺骨返還式は滞りなく終了した。

**第104回 歯科医師国家試験結果**

2月5, 6日に実施された第104回歯科医師国家試験の合格発表が3月22日にあり、本学は全体で114名が合格し、そのうち新卒者は105名が受験し83名が合格した。既卒者を含めた全体の合格率は66.3%で、新卒者の合格率は79.0%であった。

全国での合格者数は2,400人で昨年とほぼ同数、合格率は71.0%で昨年より1.5ポイント上がった。

第104回歯科医師国家試験結果

受験者数		合格者数	不合格者数	合格率
新 卒	105	83	22	79.0%
既 卒	67	31	36	46.3%
合 計	172	114	58	66.3%
全 国	3,378	2,400	978	71.0%

第18回 公開講座「枚方講座」開催

第18回大阪歯科大学公開講座「枚方講座」が、2月26日、3月5日の2週にわたり土曜日の午後、楠葉学舎講堂で開催され、ともに150名を超える参加者があった。

講演者および講演内容は昨年9月に行われた「天満橋講座」と同じものでしたが、抄録集には新たに用語解説やQ&Aを掲載し、わかりやすいものにした。講演後も、受講者からの多くの質問があり、平成22年度の公開講座は天満橋講座、枚方講座とともに盛況のうちに終了した。





第6回 人権標語入賞者表彰式



3月7日に第6回人権標語入賞者の表彰式が行われ、川添堯彬学長から最優秀に選ばれた1年生の山崎觀千人さんらに表彰状と記念品が贈られた。



平成22年度 人権講演会開催



人権啓発推進委員会では、今年度の人権講演会を平成23年3月8日（火）に天満橋学舎西館5階臨床講義室で開催しました。今回は「部落史に学ぶ—前近代を中心として—」をテーマに、桃山学院大学教授の寺木伸明先生をお招きして講演していただきました。附属病院の教職員をはじめ多くの方が熱心に受講されました。

寺木先生は講演の中で、部落問題が端的に現れるのは、結婚、就職および住宅取得時であり、差別や忌避意識によって示され、2006年と2010年の大阪府堺市の

調査によると、現在においても回答者の25%から30%の人々が、状況によっては、部落差別をする可能性があるようです。この様な差別がなぜおこるのか、原因を突き止めるためにも歴史的経緯を明らかにする必要があり、又、差別のむごさ、非人間性を明らかにすることが、人権確立のために必要であり、ひいては障害者問題、女性差別、パワハラの解決にも役立つと思われると指摘されました。

さらに、日本の古代社会においても家柄や血筋による差別が存在し、残念ながら、日本に渡來した大乗仏教においても、食肉関連や文化芸能を担った「川原者」を“ケガレ”という事で差別してきた事実が示され、その時代における政治支配の道具としてきたという事実も述べられました。差別意識を植え付けられた人々も不幸であり、自分自身の幸せ、人間性の回復のためにも、人権を学ぶことの意義があります。寺木先生の言わされた、「歴史とは、過去と現代との対話である」(E. H. カー)との言葉を重く受けとめるとともに、幸い私たち、この様な人権教育の機会がありますので、一層学びを深めるべきであるとの印象を受けました。



大浦教授“IAADR”優秀科学者賞受賞

本学大学院研究科科長の大浦清教授（薬理学講座）が、平成23年3月16日にアメリカのカリフォルニア州サンディエゴ市で開催された第89回国際歯科研究学会（IADR : International Association for Dental Research）の開会式において、2011年の優秀科学者賞 “IADR Distinguished Scientist Award” (Pharmacology/Therapeutics/Toxicology Research Award) を受賞しました。

“IADR Distinguished Scientist Award”には16部門の賞があり、大浦教授は薬理学・治療学・毒物学の分野においてすぐれた業績が評価されました。

○大浦教授の受賞研究評価（IADR事務局広報による）

大浦 清教授は、1975年より一貫して薬理学研究者として、局所麻酔薬、抗炎症薬、化学療法薬などの薬物およびウニ毒と白血球の遊走能 (Chemotaxis)、貪食能 (Phagocytosis) および活性酸素産生能 (H_2O_2 , O_2 , NO) など白血球機能を中心とした生体防御機構との関連性に関する研究を進めている。また、エイズ (AIDS)、慢性関節リウマチ(RA)、歯周疾患、口腔癌などの各種疾患とサイトカインとの関連性を調べ、有効な治療方法を検討するとともに、歯周疾患およびインプラント治療における遺伝子診断の可能性を検討し、個人個人に合ったオーダーメイド治療の確立に貢献している。



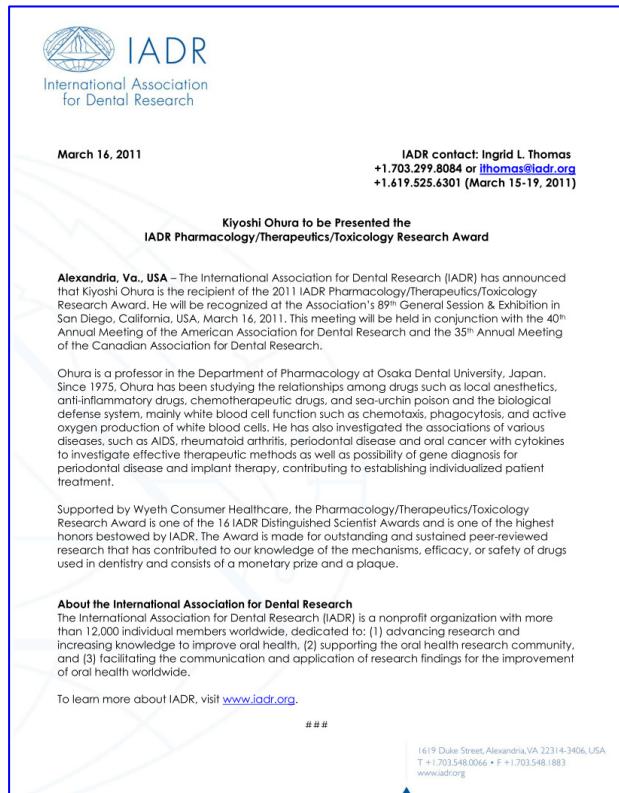
授賞式において “Maria Fidela de Lima Navarro”
IADR会長から受賞ブラーク（楯）を受ける



受賞マーク

大浦先生の受賞を伝えるIADRのニュース

Kiyoshi Ohura to be Presented the
IADR Pharmacology/Therapeutics/Toxicology Research Award





平成23年度 事業計画



—はじめに—

本学は、明治44年12月12日に設立され、いよいよ平成23年の今年、創立100周年の年を迎えることとなった。創立100周年の記念事業については、平成23年度の事業計画においても特別重点計画として取り上げ、この100年に一度の大事業を大阪歯科大学の総力を挙げて成功させなければならない。各記念事業を担当している委員はもとより、すべての教職員が一致・協力してこの事業に取り組む。

昨今の私立歯科大学を取り巻く状況は、依然としてきびしいものがあり、受験生離れは深刻なレベルにある。さらに、政府の定員削減要請は具体化してきており、私立歯科大学にとって存続にかかる問題となっている。こうした中、本学ではここ数年、学生教育に注力し、学生の節目となる課程において必要とされる学力のアップを図る方針を立て、「五つの力（りょく）の目標」を掲げ、教職員が一体となって学生教育に取り組んできた。

「五つの力の目標」とは、①募集ブランド力の回復、②学力の向上、③教育力の向上、④人間性涵養力への注力、⑤教員人材育成力への注力のことであるが、先生方がことに教育力に力を注いでくれたことで成果が上がってきていている。平成23年度は、この「五つの力の目標」を継続・発展させながら、さらに「三つの力」を追加目標として掲げたい。それは、①学生の国際交流力増強、②大学院力の増強、③研究力の向上の三つである。学生の国際交流力増強は、シドニー大学やコロンビア大学との国際交流に参加した学生を見ていると積極的に発言するようになり、勉学へのモチベーションも高まるので、大学として積極的に支援していく。大学院の増強と研究力の向上は、相互につながっており、ここにも力を入れたい。

本学の運営にあたっては、教育、研究、診療を基本とし、両専門学校を加えて総合的な歯科医学教育機関、歯科医療機関として充実・向上に取り組むとともに、昨今のきびしい歯科界の状況に鑑み、大学及び附属病院並びに専門学校の経営の更なる効率化に努めることとする。

本学の100年の歴史を振り返ると、創立者の藤原市

太郎先生が「学校経営事業は営利に非ず、博愛公益のために努力するものなること」という言葉を遺されている。財政的な事情でこの学校を存続させるには自ら去る以外に方法がないと考えた藤原先生が、後継者にくれぐれもこの点だけはお願ひしたいと託した言葉であるが、100年のときを経ても決して古びておらず、現代にも通ずる立派な建学の精神を表した言葉である。創立100周年を機に、この建学の精神を学生教育にも取り入れたいと考えている。また、本学のあり方を再認識するため創立100周年の柱となる言葉としたい。

平成23年度事業計画

- I. 教学（教育、研究）
- II. 大学院力の増強目標
- III. 教育人材育成力の改革
- IV. 附属病院の改革
- V. 両専門病院の将来像
- VI. 特別重点計画

I. 教学（教育、研究）

創立者の言葉にあるように、本学は「博愛公益のために努力する」すなわち「すぐれた歯科医師を養成することにより国民の口腔の健康、歯科診療において広く社会貢献する」ことを目的に設立された学校であることを踏まえ、現代の歯科医療の動向を把握しつつ、教育、研究においてすぐれた人材を育成すべく、教育研究環境の整備に努めながら不断の教育改革を進めて行くこととする。教育においては、一貫したカリキュラムのもと学力の向上に努めるとともに、人間性涵養力にも力を注ぎ、広く社会に貢献できる歯科医師を養成する。

1. 募集ブランド力の向上

現在の歯科大学の状況を踏まえ、入試倍率を高める努力が必要であり、募集ブランド力の向上に努めたい。募集ブランド力を高めるため、入学選抜方法（一般入試・推薦入試）の検証、大学の認知度・好感度の向上させるための施策（ホームページの更新・オープンキャンパスの充実等）、国試合格率を向上させるための施策に取り組む。

2. 入学時学力（第一次学力）

入学時の学力に個人差が認められるため、推薦入学者には入学前に準備教育を施すとともに、初年時での

教育に注力したい。少人数教育で学生一人ひとりに大学での学習スタイルを身につけさせ、6年間支障なく勉学が続けられるよう取り組む。

3. CBT学力（第二次学力）

CBTは、5年次の臨床に入る前に行うコンピュータを使った全国共通の共用試験のことであるが、文科省がこの試験を重視し始め、第1次の国家試験のように試験結果を学校単位で評価している。この共用試験と国家試験との相関関係も指摘されており、CBTに1回で合格できる学力を、学年ごとに到達目標を定め4年間で養成できるよう取り組む。

4. 人間性涵養力（教育力）

歯科医師として社会貢献できるようになるためには、患者さんと信頼関係を築けることが重要とされており、歯科医師として必要な人間性やコミュニケーション能力が問われている。こうした人間性を涵養するため、態度教育や共同学習を向上させ、メンタル面でもしっかりと人材育成に取り組む。

5. 学士学力（第三次学力）

卒業試験にあたる学士試験1と2をともに1回でパスする学力を身につけさせ、国家試験に90%以上が合格できるようにするため、5年生、6年生を天満橋で一貫教育することを基本に教育及び学習環境の改善に取り組む。また、学業面だけでなく精神面でも学生を支援できる体制を整える。

II. 大学院力の増強目標

事業計画の二番目は、大学院を取り上げた。大学院歯学研究科は、歯学に関するが学術理論及び応用を教授研究し、独創的研究によって従来の学術水準に新しい知見を加え、文化の進展に寄与するとともに、研究者として自立して研究活動を行う能力及び学識を養うこととしている。最近、大学院への入学希望者が減少しているため、平成23年度は大学院力の増強目標を掲げ、研究力の活性化を目指す方策に取り組む。大学院を魅力あるものにし、入学希望者を増大させることにより、学術研究の活性化につなげる。さらに、歯科大学の卒業生である博士（歯学）課程だけでなく、社会人あるいは外国人の入学についても実施に向け受け入れ体制を整えていく。これまでの垣根を越えた人材が集まることで大学院の活性化につながることを期待している。

1. 大学院生の入学倍増計画

私立歯科大学は、学部の方もそうであるが、大学院も入学希望者が減少しており、将来の研究者・教育者の人材確保の不安要因となっている。本学でも、臨床系の講座に院生が偏在する傾向が続いているが、基礎系では院生がいない講座も存在する。まず、大学院生の総数を増やすことを検討したい。そのため、魅力ある大学院にすべく研究環境、教育指導体制、学生への支援策などの改善に取り組む。

2. 募集定員の拡大、社会人入学の拡大

大学院の募集定員を増やす方向で検討し、社会人入学制度についても具体的な対応を検討する。

3. 外国人入学・受入れの奨励

外国人の留学受入れについては、実際に中国や韓国から留学の希望が寄せられており、100周年を機にそうした要望に対応できる受入体制を整備する。

4. 専門医の課程、修士課程の増設

専門医コースの設置は文科省がかねてから推奨しており、修士課程の増設は専門学生の修学を目的としている。これまでの大学院の枠を越えた試みであり、多様な人材が集まることで大学院の活性化につなげていく。

III. 教育人材育成力の改革

教育人材育成力については、2年前からテスト段階を含め教員評価を実施しており、その評価結果に基づき先生方、一人ひとりが学生教育の改善に取り組んでいる。教員評価を継続して実施し、その結果を分析することで教育人材育成力につなげていく。

1. 教員評価－実施結果の分析と報奨・顕彰

教員評価の実施結果の分析に基づき、それを報奨や顕彰に反映することを検討する。

2. 第5・6学年を天満橋で一貫教育

3. 講義室・自習室の増設

2と3は一体となっていて、5年生と6年生を天満橋で一貫教育するため講義室と自習室の増設し、国家試験に向けて学生の教育環境を整えることを目的としている。教育環境を整えることで、学生はクラスの仲間とともに助け合いながら勉学に集中することができ、先生方も楠葉と天満橋を往復することなく天満橋学舎で教員力を存分に発揮できる。

IV. 附属病院の改革

附属病院は、地域の中核となる歯科総合病院として高度な歯科及び関連する医療の提供を使命としている。この使命を果たすためには、体系的で効率的な病院運営が必要であり、経営面においては早くから収支改善による健全経営という基本戦略を打ち立てている。その成果は着実に上がってきているが、学納金の減額等により大学の収支が再び悪化する状況にあるため、大学とともに附属病院も収支改善に努め、継続して効率的な運営に取り組む。また、病院の立地条件や医員の潜在能力を生かした病院力をアップさせる施策に取り組む。

1. 収支改善による健全経営戦略

附属病院の基本戦略として取り組む。

2. 先進医療の態勢整備

患者さんのニーズに対応した先進医療態勢を整備する。

3. 病院運営貢献者への顕彰・報奨

病院の運営あるいは医員として貢献している人への顕彰・報奨を検討する。

4. B／C考慮の支出、経費の見直し

病院は予算規模が大きいため、経費削減に向けた取り組みを継続する。

5. 各部署の収支改善策を提案・実行

各部署からも積極的に収支改善策を提案・実行するよう取り組む。

V. 両専門学校の将来像

両専門学校の将来像については、専門学校財政改善等検討委員会に付託しており、大学を含めた総合的な歯科教育機関という枠組みの中で検討している。定員問題の改善、短大化構想などについて取り組む。

1. 専門学校財政改善等検討委員会への付託

2. 募集定員を減らすなど改善策を実施

3. 短大化の検討

4. 大学院修士課程へ接続

VI. 特別重点計画

1. 創立100周年記念事業の推進

2011年11月11日（金）に開催される創立100周年記念式典、12日（土）に開催される記念講演会、さらに26日（土）に開催される全国同窓会会員大会を中心に、大

阪歯科大学が総力を挙げて記念事業に取り組む。

創立100周年記念事業

- ①記念式典 2011年11月11日（金）
- ②本学発祥の地への記念碑設置
- ③記念事業募金
- ④天満橋へ講義室建設（100周年記念館一仮一）
- ⑤出版物の刊行（100年史・院50年史）
- ⑥記念講演会・公開講座 2011年11月12日（土）
- ⑦歯科医学の歴史的資料（史料）の収集

2. 第22回日本歯科医学会の主幹

2012年11月9日（金）～11日（日）の3日間、リーガロイヤルホテル等で開催される「第22回日本歯科医学会総会」に向け、主幹校として全学的に取り組む。

寄 贈

下記の寄贈を受けましたので報告します。寄贈いただいた各位には心より感謝いたします。

・大阪歯科大学第59回卒業生

平成23年3月11日寄贈
卒業を記念してポール型電波時計

782,670円

東日本大震災救援金の募集

大阪歯科大学では、3月11日（金）に発生した「東日本大震災」に伴い、被災者への救援金の募集を3月17日～31日に行い、教職員から2,946,302円の寄付がありました。救援金は、日本赤十字社を通じて被災者への救援活動に役立てられます。ご協力ありがとうございました。

今後とも、大阪歯科大学では、第二次救援金の募集や生活支援物資の援助など被災地への救援活動に取り組んでいきます。教職員各位のご協力をお願いいたします。

創立 100 周年記念事業募金・寄付報告

創立100周年記念事業募金の平成23年3月31日現在の寄付状況を報告します。ご寄付いただきました各位には心より感謝いたします。

◎ 寄付金額

	件 数	寄付金額
法人・団体	27	26,365,000
個人	525	39,056,000
合 計	552	65,421,000

(平成23年3月31日現在)

◎ 寄付者ご芳名

○法人・団体（50音順）

アサヒプリテック株式会社	様
株式会社 アソインターナショナル	様
「一黎会」(大学1回)	様
伊藤超短波株式会社	様
医療法人 医真会	様
大阪歯科学会	様
大阪歯科大学学友会	様
大阪歯科大学口腔解剖学講座	様
大阪府歯科医師会泉北支部	様
鎬木文具店	様
黄菊会	様
小林製薬株式会社	様
医療法人 社団 慈誠会	様
医療法人 社団 柴田医院	様
セレック株式会社	様
株式会社 センジョー	様
株式会社 辻井書院	様
デンツプライ三金株式会社	様
株式会社 二紀出版	様
株式会社 西原衛生工業所 大阪本店	様

白水貿易株式会社	様
パナソニック電工エンジニアリング株式会社	様
パナソニックデンタル株式会社	様
有限会社 プラザフォーティーン	様
株式会社 三菱東京UFJ銀行	様
「黎明会」(大学38回)	様
和田精密歯研株式会社	様

〇個 人 (ア行)

合田	耕太郎	様	相原	有理	様
青江	俊介	様	赤石	孝博	様
赤尾	一成	様	赤羽	稔	様
朝井	功	様	芦田	克巳	様
足達	慶輔	様	安達	舜治	様
安達	忠司	様	安達	久代	様
足立	裕亮	様	天野	仁一朗	様
天野	義和	様	雨宮	幸三	様
新井	是宣	様	有田	清三郎	様
有山	金一郎	様	井伊	かず代	様
飯田	拓二	様	池田	直也	様
池田	祐治	様	池田	能子	様
五老海	輝一	様	石浦	和子	様
石川	春美	様	石川	美晴	様
石崎	好洋	様	石津	裕章	様
石原	健也	様	板垣	惠輔	様
板倉	紘一	様	市場	寛人	様
井出	博文	様	伊藤	公雄	様
糸山	昇	様	稻川	実	様
稻田	貴代美	様	稻村	宗男	様
犬伏	幸代	様	井上	エツ子	様
井上	隆史	様	井上	宏	様
揖場	克次	様	今西	正雄	様
今村	文四郎	様	岩井	廣茂	様

岩井 康智	様	岩城 正弘	様
岩崎 荊路	様	岩本 助幸	様
上田 一郎	様	上田 直克	様
上田 雅俊	様	上田 実果	様
上村 守	様	内海 潔	様
宇野 昭信	様	梅崎 晋吾	様
梅村 智	様	江口 宗昭	様
江藤 隆徳	様	王 宝禮	様
大浦 清	様	大川 勝	様
大久保 直	様	大塩 謙	様
大島 輝武	様	大島 浩	様
太田 一男	様	太田 恵一	様
太田 謙司	様	大谷 雅昭	様
大谷 昌宏	様	大槻 榮人	様
大西 亮太朗	様	大畠 裕彦	様
大本 博	様	岡 邦恭	様
小懸 泰道	様	岡崎 景	様
岡崎 定司	様	岡田 真廣	様
岡正 利一	様	岡村 敬次	様
岡本 新	様	岡本 吉司	様
岡山 廣樹	様	小川 雅央	様
沖田 和久	様	奥田 昌義	様
奥野 薫	様	奥村 洋二	様
小谷 泰生	様	小野 雅央	様
鉄田 豊	様	小野山 薫	様
小幡 登	様	小渕 富美子	様
尾松 みどり	様		

○個 人 (力行)

加奥 奏哉	様	垣内 英也	様
柿原 理奈	様	覚道 健治	様
覧 晋平	様	加地 公夫	様
梶野 大典	様	柏木 宏介	様

梶原 公彦	様	片岡 壽平	様
勝藤 大輔	様	加藤 イツ子	様
嘉藤 幹夫	様	門田 紀	様
角野 博俊	様	金谷 恵大朗	様
金子 充親	様	金平 裕久美	様
鎌田 愛子	様	亀井 崇	様
亀水 忠茂	様	亀水 忠宗	様
蒲生 祥子	様	鴨打 俊治	様
川合 進二郎	様	川井 弘之	様
河合 泰則	様	川上 隆彦	様
川添 基彬	様	川添 優子	様
川本 博男	様	神田 昇平	様
岸保 文雄	様	菊地 賢司	様
菊池 宣夫	様	岸本 瑞穂	様
喜多侯夫・一夫	様	木谷 琢郎	様
鬼頭 俊雄	様	木下 保	様
木村 圭助	様	木村 公一	様
木村 隆次	様	九鬼 佐和子	様
国富 昌司	様	久保 茂正	様
熊崎 真義	様	久門田 俊治	様
倉知 正和	様	栗岡 一人	様
栗田 賢一	様	黒田 収平	様
黒松 裕喜秀	様	小石 雅也	様
小石 淑子	様	小出 武	様
高津 匡雄	様	合田 興世	様
合田 征司	様	高田橋 美幸	様
河野 多香子	様	河野 通久	様
河見 忠雄	様	高麗 誠紀	様
小谷 順一郎	様	小林 直克	様
小正 裕	様	近藤 幹雄	様

○個 人 (サ行)

酒井 宏和	様	酒井 正道	様
-------	---	-------	---

ODU NEWS No.161

左海 迪夫	様	坂尻 光春	様
阪田 昌英	様	坂野 貞惠	様
坂本 厚	様	阪本 充	様
阪本 義典	様	佐久間 黙	様
佐久間 泰司	様	佐々木 久幸	様
佐藤 俊一	様	佐藤 武	様
佐藤 学	様	佐ノ木 幸夫	様
更谷 啓治	様	重森 文弥	様
静間 紀佳	様	篠原 光子	様
島津 肇	様	清水 一彦	様
清水谷 公成	様	下田 照子	様
下村 錢三郎	様	庄 守	様
正司 武	様	新谷 弘子	様
末武 伸敏	様	杉江 利光	様
杉岡 伸悟	様	杉立 馨	様
杉本 菜穂子	様	住谷 道夫	様
諏訪 喜恵	様	諏訪 文恵	様
諏訪 文彦	様	関本 恵一	様
錢谷 豊文	様	添田 栄造	様
園本 美恵	様		

田中 翼	様	田中 俊正	様
田中 昌博	様	田中 靖人	様
田邊 嘉穂	様	谷 幸治	様
田幡 治	様	田村 功	様
田村 基政	様	千葉 亮	様
津尾 道雄	様	塚本 幸子	様
塚本 芳雄	様	柘植 昌保	様
辻 準之助	様	辻 浩洋	様
辻林 徹	様	辻本 孝光	様
辻本 守孝	様	津田 進	様
津谷 良	様	土屋 健司	様
筒井 淳	様	椿井 琢光	様
椿本 九美夫	様	寺岡 靖之	様
寺西 義浩	様	土肥 哲彦	様
堂前 英資	様	堂前 尚親	様
徳高 良造	様	土佐 淳一	様
戸田 伊紀	様	戸田 忠夫	様
戸堂 博之	様	富澤 正直	様
富田 基雄	様	富永 和也	様
豊田 紘一	様	豊田 俊	様
豊福 英市	様	鳥井 克典	様

○個人(夕行)

大郷 英里奈	様	高井 規安	様
高尾 純子	様	高田 易典	様
高橋 清	様	高橋 士朗	様
高橋 正生	様	高山 泰幸	様
武市 甫	様	竹内 宏行	様
武田 元一	様	武田 昭二	様
竹歳 真人	様	竹村 明道	様
多田 逸	様	多田 雅宣	様
立花 京子	様	田中 昭男	様
田中 順子	様	田中 資郎	様
田中 誠也	様	田中 忠幸	様

○個人(午行)

仲 秀俱	様	長井 圭作	様
中井 孝佳	様	永石 真幸	様
中尾 昌彦	様	中川 智英子	様
中川 徹	様	中川 宏	様
長澤 健一	様	中嶋國博・悠子	様
中島 将亢	様	中嶋 正博	様
長砂 忠男	様	中田 仁成	様
中谷 祥二郎	様	中塚 昌伸	様
中塚 美智子	様	中西 功	様
中西 淳一	様	中西 宣	様

中西 久 様	中西 洋介 様
中野 健一郎 様	中野 崇 様
長野 豊 様	中原 一彰 様
中村 祥子 様	中村 廣志 様
中村 誠之 様	成田 雅彦 様
西海 啓之 様	西浦 亜紀 様
西岡 偉克 様	西川 泰央 様
西嶋 克巳 様	西田 拓史 様
西堤 京子 様	西出 修 様
西村 恵司 様	西村 暢宏 様
西村 満夫 様	新田 賢 様
二宮 隆 様	仁保 光昭 様
根住 正博 様	野上 清豪 様
ノグチ カツコ 様	野口 勝弘 様
野瀬 博之 様	野田 和伸 様
野田 真 様	野田 美和子 様
農端 健輔 様	農端 俊博 様
野村 俊勝 様	

○個人(ハ行)

橋本 猛伸 様	橋本 典也 様
長谷川 信也 様	長谷川 博 様
長谷山 則夫 様	羽田 恭彦 様
花谷 正明 様	林 弘子 様
林 宏行 様	原 和子 様
原 久史 様	伴 宏樹 様
光 司郎 様	樋口 恒子 様
樋口 淳一 様	肥後 文章 様
日野 哲雄 様	深尾 章 様
福井 和枝 様	福成 文隆 様
福原 良治 様	福本 穂高 様
福家 秀一 様	藤井 諭 様
藤井 章司 様	藤井 隆晶 様

藤井 孝政 様	藤井 弘之 様
藤岡 俊二 様	藤高 洋一 様
藤原 真一 様	藤原 進 様
船橋 洋一 様	古市 憲史 様
古市 史子 様	古川 順康 様
古川 壽男 様	別當 敏 様
逸見 利也 様	逸見 智康 様
逸見 浩史 様	逸見 美登里 様
方 一如 様	細井 敦子 様
堀田 雄一 様	堀切 卓 様
堀口 靖史 様	本城 範典 様

○個人(マ行)

前川 英太郎 様	前田 衛大 様
前田 孝一郎 様	前田耿二・美貴子 様
前田 真治 様	前田 光代 様
前野 隆 様	牧浦 齐 様
楳田 一輝 様	牧田 佳真 様
牧谷 弘幸 様	牧平 幹生 様
真喜屋 恒代 様	増田 次郎 様
増田 裕弘 様	益野 一哉 様
松井 康彦 様	松島 恒二 様
松谷 哲博 様	松本 和子 様
松本 和浩 様	松本 圭右 様
松本 修二 様	松本 尚之 様
松本 仁 様	松山 博史 様
丸橋 瑛一 様	三上 正彦 様
水野 順 様	光安 良重 様
三戸岡 直樹 様	南 利哉 様
峰田 深佐子 様	宮井 芳二 様
宮崎 哲 様	宮本 美千子 様
向井 和之 様	宗金 龍二 様
村上 晃 様	村上 斎 様

村上	昌央	様	村上	勝	様
村上	義和	様	村上	よし子	様
村田	省三	様	門司	研一	様
森	芳雄	様	守内	真澄	様
森島	秀一	様	森田	章介	様
守田	忠正	様	森鼻	健史	様
諸井	英世	様			

| ○個 人 (ヤ行)

薬師寺 毅	様	安井 照治	様
安井 宏之	様	保田 宗茂	様
矢谷 憲一郎	様	矢谷 慎一郎	様
矢谷 正公	様	梁川 国昭	様
矢野 一郎	様	矢部 公典	様
山上 剛史	様	山崎 信義	様
山下 敦	様	山田 香	様
山田 耕治	様	山田 重樹	様
山田 尋士	様	山田 隆一	様
山羽 義信	様	山本 一世	様
山本 佳津	様	山本 範子	様
山本 嘉治	様	山本 良介	様
山脇 頌子	様	山脇 裕	様
結城 剛己	様	吉田 博昭	様
吉田 良子	様	吉田 隆一	様
吉福 亜紀	様	吉村 里美	様
吉村 敏行	様	四元 尚子	様
米田 正器	様		

| ○個 人 (ワ行)

涌本 昇 様 和田 喜久雄 様
渡邊 充春 様 綿谷 和也 様
和唐 功 様

人事

昇任

欠損歯列補綴咬合学講座 准教授 川野 晃
H. 23. 3. 31付

職員採用

附属病院 看護師 倉本 瑠美
H.23.1.11付

定年退職者

物理学教室	主任教授	豊田 紘一
小児歯科学講座	主任教授	大東 道治
歯周病学講座	主任教授	上田 雅俊
口腔インプラント科	病院教授	江藤 隆徳
法人事務局	事務局長	中村 廣志
同窓会事務局	課長待遇	鷹尾富貴子
附属病院	放射線技師長	櫻井 邦昭
附属病院	歯科技工士	佐藤 繁男
附属病院	歯科技工士	永井 利明
附属病院	歯科技工士	宮川 浩司

依願退職者

欠損歯列補綴咬合学講座 準教授 川野 晃
口腔外科学第一講座 助教 福地 和秀
附属病院 歯科衛生士 伊藤亜希子
以上 H.23.3.31付

再雇用任期滿了

図書課 事務職員 伊藤 淑子
H.23.3.31付

あとがき

天災に言葉を失う・・・。祈りと救済。

大阪歯科大学広報 第161号

大藏省大正法報 第151
發行日 平成23年3月31日

編集・発行 広報委員会

〒573-1121 枚方市楠葉花園町 8-1

電話 072-864-3111